



AAFC	LPレコード・メンテナンス講座	2013年6月2日
分科会資料		講師：林英彦

1、LPレコードの取り扱い

LPレコードは、酢酸ビニールと塩化ビニールの混合物に黒色の着色剤や潤滑剤等を加えた材料が用いられている。

この材料をスタンパーと呼ばれるレコードの溝部分が凸となった板高温高圧でプレスすることによりレコードが完成する。

ビニールという比較的軟らかな材質の為、傷がつきやすく又静電気を帯びやすいので取り扱いにはそれらに対する配慮が必要である。

1) 防塵対策

レコードの溝に埃等が入ると、雑音発生のみならずレコードを傷つける原因となるので、汚れた手で扱わない、レコード面に手が触れない、ターンテーブルシートの清掃清潔な収納袋の使用等に配慮のこと。

装置のある部屋の清掃により埃の発生を抑えることにも気を配りたいですね。

2) 防湿対策

レコード面の湿度はカビ発生の原因になるので、レコードの保管は湿気に配慮が必要押し入れや窓際等は避けた方が良い。

またジャケットの内袋はビニール袋よりも紙袋の方が良いと思われる。静電気発生を抑えられるメリットもある。

3) 静電気対策

きれいにクリーニングしたレコードも静電気が帯電すると、空気中の埃が吸い寄せられてしまう。また時にレコードと針の間で放電（バッチと大きな音が出る）が起きることもある。特に冬場の乾燥時に静電気を帯び易い。根本的な対策は無い様で、対処療法的なことになる。帯電防止材の入ったクリーニング材や導電性ブラシ等の活用となる。内袋を帯電しにくい紙製にする、出し入れ時にレコードと内袋の摩擦が少なくなるよう静かに扱う等の配慮が必要である。

4) 反り防止

レコードは弾力性を持っているが、長年偏った力を受けると塑性変形する為、盤面に均一に力が加わる様な保管を心がけたい。

一般的にはラックに立てた状態で保管することになるが、立てたレコードが決して斜めにならない工夫が必要である。

2 レコードのクリーニング

クリーニング方法は多種多様、人夫々に自分流と云うものがあるようです。

今回ご紹介する方法も絶対的なものではなく、謂わば「ハヤシ流」として参考程度に捉えて頂ければ結構です。

1) 日常（演奏前）のクリーニング

きちんとしたクリーニングをしたレコードも、部屋に漂う埃や極小なゴミの付着は避けられない、加えて関東の冬場は部屋の僅かな隙間からも入り込む「土埃」には気をつけたい。

演奏の都度、さっと一拭き程度の配慮が必要である。

① レコードクリーナーをレコードに軽く当てて埃を取る。

乾式と湿式があるが、湿式の方が効果が高い。

湿らせたガーゼ等軟らかな布でも良い。

※決して力を入れないこと。土埃の様な硬い物が混じっていると傷の原因となる。

【ハヤシ流】

オーディオテクニカ製方向性ベルベットを使用したクリーナーに洗浄液をスプレーで軽く湿らせて一拭きしている。

また、演奏中にアーム式クリーナーを用いることもある

② 静電気が発生している場合は、カーボンファイバークリーナーや静電気除去材の入ったスプレー材を使用して徐電を行う。

湿った布でレコード面を拭くことでもある程度の除電効果がある。

レコードが帯電したままだと、空気中の埃等を吸着する。

2) 本格的なレコードのクリーニング。

最近は新品レコードを入手することが難しく、コレクション拡充は中古品が中心となっている。販売前に丁寧にクリーニングされていることは稀で、大半が演奏前にしっかりとクリーニングが必要の様である。

新品レコードであっても、プレス時のカスや梱包時の埃等が付着していることがある。

① 各種レコードクリーナー

i、洗浄式

レコード用クリーナーは、安価なものから10～50万円ほどする高価なものまで色々出回っているが、高級品と呼ばれる物に共通しているは「洗浄」という方法を取っていること、機器が大きいことである。

右の写真が代表的な洗浄吸引タイプ（VPI HW-16.5）

この他超音波式もあるがやはり高価である。



比較的安価な市販のレコード洗浄器としては、ドイツ製「disco-antistat (ディスコ・アンティスタット)」が好評の様である。

洗浄液はフィルターで濾すことで繰り返し使えるという経済性もある。



家庭の水道水で洗浄する方法も良く使われている。この際には、レコードのレーベル面を保護する器具として右の様なものも便利グッズとして活用されている。



ii、その他クリーナー

アナログ全盛期には、色々な製品が販売されていた。その一部を下記に紹介する。なお、クリーニング用スプレー（帯電防止材入り）は現在もナガオカやオーディオテクニカが販売している。



湿式クリーナー
(方向性ベルベット使用)



デュオパッド
(方向性ベルベット使用)



粘着ローラー



カーボンファイバークリーナー
(除電機能あり)



自走式クリーナー(除電機能付き)



アーム式クリーナー
(演奏中に使用)

【ハヤシ流洗浄方法】

レコードプレーヤー上で洗浄出来る為、レコードの持ち運びが不要、場所を取らない、器具も安価で十分な効果が期待できる。

《用意するもの》

洗浄液：無水アルコール、精製水の混合液（50：50）に界面活性剤を少々添加した物・・・スプレー容器に入れて使用

超音波歯ブラシ：デンターシステムのヘッドを装着（システム単体でも効果あり）
（デンターシステムの毛先は、レコード針よりも細い）

電気掃除機：洗浄液の吸引用、

吸水シート：キッチンペーパー、ガーゼ、クイックドライタオル等吸水性に優れたもの

レコードクリーナー：方向性ベルベットを使用した物

《洗浄方法》

- ・洗浄液をスプレーでレコードの溝が判らなくなるほどレコード面全体にタップリと吹き付ける。
- ・ターンテーブルを回転させ、歯ブラシを軽く当てて溝の中の埃を掻き出すイメージでレコード面全体を洗浄
- ・電気掃除機で洗浄液を吸い取る。掃除機を用いない場合は、吸水シートで洗浄液を吸い取る。
- ・溝に残っている洗浄液をレコードクリーナーで丁寧に拭き取る。
この際は溝に残っている埃を液と共に拭き取るイメージ
- ・乾燥（洗浄後直ちに針を落としても特に問題は無い様です。）

※カビ、手あか、煙草のヤニ等がひどい場合は、洗浄液を吹き付けた後にスポンジやガーゼ等軟らかな布で強めに擦り、その後に歯ブラシを使用。

但し、ターンテーブル上で強く擦ると、ターンテーブルの軸受にダメージを与えるので、テーブルやデスクの上で行うこと。

※内袋に収納する際は、特に湿気が残っていないことを確認のこと
湿気はカビの原因となる。

3、レコード針のクリーニング

クリーニングを施したレコードといえども、完全に音溝内の不純物を取り除くことは困難であり、演奏後には針先に不純物が付着します。

レコード片面を演奏するだけで、針は400～500mもの距離の溝掃除をしている計算です。

針先の汚れは音質劣化のみならずレコードへのダメージにも繋がるので、演奏前にクリーニングします。

写真手前が電動式スタイラスクリーナー、上段左はゼロダスト（粘着式）、真中はブラシ、右は液タイプのクリーナー

